

「生き生きサマーキャンプ」 事業報告

1 趣旨

海での活動を中心とした、海と森林、河川とのつながりを体感できる自然体験活動を通じて、児童生の森林環境への興味・関心を高め、豊かな情操を育むとともに異年齢集団による共同活動等これまで体験したことのない活動を体験することで自主・自立の心や生きる力を育てる。

2 期日

令和4年 8月18日(木)～21日(日)3泊4日
(学生リーダーは8月17日(水)～21日(日)4泊5日)

3 会場

大分県立香々地青少年の家 キャンプ場・宿泊棟
〒872-1202 豊後高田市香々地5151番地
TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152

4 参加者

県内の小学5年生から中学2年生までの児童・生徒25名
(小5:18名、小6:4名、中1:2名、中2:1名)

5 活動プログラム

	午前	午後	夜
8/17(水) ＜学生研修＞	オリエンテーション アイスブレイク	活動プログラム確認 創作活動研修	野外炊飯 ミーティング
8/18(木) ＜1日目＞	出会いの集い ・アイスブレイク、班結成	海活動(水泳、SUP、いかだ等) ソロテント設営 野外炊飯(カレーライス)	夕日観賞 班ミーティング
8/19(金) ＜2日目＞	朝食作り(ホットサンド) 夷谷探険(登山) 川遊び	海活動(水泳、SUP、いかだ等) ソロテント設営	ナイト探険 星空観察 班ミーティング
8/20(土) ＜3日目＞	テント撤収 マリニック準備 BBQ	マリニック(海の運動会)	班ミーティング (成果発表会の準備)
8/21(日) ＜4日目＞	思い出アイテム作り (キーホルダー作成) 成果発表会の準備	成果発表会・別れの集い	

海での活動を中心とした山、川、海とのつながりを体感できるようなプログラム編成を行った。海の活動は、バナナボートや水中トランポリンなど純粋に海を楽しむ活動に加え、水泳やSUP、いかだ活動など個人の目標に応じた活動や班での協力を要する活動を取り入れた。また、水泳やSUP、いかだ活動は3日目のマリニックの種目とし、子供に目的意識を持たせながら活動した。

また、夷谷探険や川遊びを取り入れることで海の豊かさは山や川の豊かさにつながっていることを体感できるプログラムとした。

全プログラムを通して、班での役割分担をし、仲間と共に協力する場面や自分自身の力を発揮する機会を設け、自主的・自発的に取り組むことができるようにした。

<1日目> 出会いと交流 ～仲間づくり～

☆活動の様子

- ・自己紹介後、アイスブレイクとして「ネームパス」を行い、互いにキャンプネームを呼び合った。
- ・最初の海の活動。海の安全教室後、各自の泳力に応じた水泳指導を行った。班毎に SUP、いかだ活動に取り組んだ。
- ・野外炊飯でカレーライスを作った。役割分担を行い、スタート。自分の役割にきちんと取り組み、協力する姿が見られた。夕日を見ながらのカレーライスに全員満足の様子。
- ・班ミーティングでは、マリニックの担当種目決めとふりかえりを行った。

☆指導のポイント

- ・参加者の不安を軽減し、集団に馴染めるよう学生リーダーを中心に笑顔と積極的な声かけを意識した。
- ・キャンプ最初の海の活動のため、海の安全教室を行いつつ、水泳への意識付けを行った。
- ・班のメンバーが早く馴染み、所属感をもてるように野外炊飯や海の活動など班で協力する場面を多く設定した。
- ・ふりかえりの時間に、翌日の目標を考えさせ、しおりに記入させた。



<2日目> 山、川、海の自然に親しむ ～協力・団結して夷谷を踏破～

☆活動の様子

- ・朝食はホットサンド。前日の火起こしの経験が活かされ、すぐに火が起る。全員完食。
- ・タクシーで登山口まで移動後、A班からスタート。途中スズメバチの巣に遭遇し、危険回避のため経路を変更し、小学生にはかなり険しいコースを下った。弱音を吐くことなく全員下ることができた。「頑張って」「気をつけて」など班の中で声かけする姿が多く見られた。
- ・川遊びは、魚やカニ、水生昆虫などを夢中で捕まえる



姿が見られ、時間いっぱい決まりを守りながら活動した

- ・海の活動は、翌日のマリニックに向けてグループでの練習の時間とした。

- ・天気が回復したため、テントを室内から屋外に出して張り直した。

- ・ナイト探検では、夜の敷地内に置かれたミッションに取り組んだ。

- ・班ミーティングでは、マリニックに向け、班の担当種目のルールや準備物の確認、進行の役割分担等を熱心に話し合った。個人種目決めでは、譲り合う姿が見られるなど、相手を思いやる様子が見られた。



☆指導のポイント

- ・支援しすぎずになるべく子供の自主性を大切にし、活動させるように学生リーダーと確認。

- ・班の一員として役割を果たせるように支援した。

- ・登山は子供の状況に合わせてペース配分を考えながら上りつつ、水分補給適時行った。

<3日目> 海の自然に親しむ ~マリニックを成功させよう~

☆活動の様子

- ・テント撤収・片付けは短時間できちんと取り組めた。

- ・マリニックに向けた準備では、班毎に学生リーダー中心に話し合い活動やリハーサル、用具の準備を行った。

- ・マリニックでは、種目に懸命に取り組む様子が見られた。班のメンバーを大きな声を出して応援する姿も多々見られた。班で1つ担当種目を決めて、種目の進行をさせたが、どの班も役割分担（一人一役割）をきちんとし、すべても子供が自分の役割を果たした。

- ・班ミーティングでは翌日の成果発表会で使う写真を一人一枚選んだ。



☆指導のポイント

- ・マリニックでは、班で1つ種目運営を担当させ、一人一役とした。自分たちでマリニックを運営し、盛り上げ、成功させるという意識をもたせながら取り組んだ。

- ・班活動として、マリニックの準備を行った。



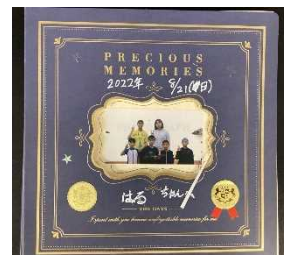
<3日目> 振り返り・別れ ～仲間との出会いに感謝しよう～

☆活動の様子

- ・貝殻とUVレジンでキーホルダーを作り、思い出の品とした。
- ・成果発表会では、子供がそれぞれ思い出の写真を1枚選び、楽しかったこと、うれしかったこと、成長したことなどを発表した。

☆指導のポイント

- ・学生ボランティアへ色紙をプレゼントし、感謝を伝える場とした。
- ・成果発表会を班長に運営させた。



7 参加者の声

(子供)

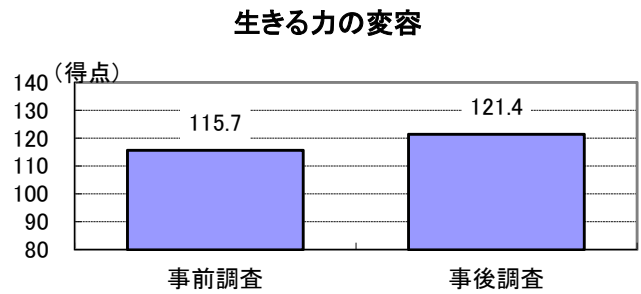
- ・野外炊飯はご飯が焦げてしまい、固くなったけど、みんなと協力してつくったのでとても楽しく、おいしかった。
- ・カレーをつくって、褒められたのでうれしかった。
- ・夕日を見ながら食べたカレーは今までで一番おいしかった。
- ・山の中は、ハチがいたり、滑る場所があったりするなどとても危険だったけど、班のみんなと協力して山に登ることができた。
- ・登山では、いろいろな人が助けてくれたので最後まで上ることができた。
- ・川ではみんなと魚をつかまえたり、遊んだりして楽しかった。
- ・マリニピックの種目決めでは、班のメンバーの得意、不得意を考えて決めた。自分がやりたいことを他の人に譲っている人もいて、優しいなと思った。
- ・マリニピックの準備ではビーチフラッグで司会進行とルール説明をちゃんとできたのでよかった。
- ・マリニピックでは4位だったけど、みんなと協力してできたので、結果的にはよかった。
- ・みんな仲良く、とても優しい。とにかく楽しい。
- ・機会があったらまた香々地に行きたい。

(学生ボランティア)

- ・初日班のみんなは仲がよいとは言えず、少し緊張した雰囲気だったが、山登りで班のみんなが助け合っている姿に感動した。
- ・子供たちの成長に感動した。
- ・3日目になると班で話し合うことが多くなり、どんどん仲がよくなるのが分かった。

6 成果

- ・参加者平均満足度 89.4%
- ・参加者アンケート（IKR 評定）では、心理的社会的能力が 2.5 ポイント、徳育的能力が 1.6 ポイント、身体的能力が 1.6 ポイント、生きる力は 5.7 ポイント向上。
- ・参加者の 68% が生きる力が向上した。
- ・グループ活動を多く設定したことで、仲間と共に協力したり、自分の力を発揮したりする場が増え、協調性や思いやりの心、他者を気遣う心などが育ったと考えられる。
- ・職員の役割分担の明確化により、4 日間スムーズに運営ができた。



7 課題

- ・活動計画（時間）を変更し、臨機応変に対応する場面が多かった。計画段階でゆとりある活動計画をたてること、担当が事前シミュレーションを十分に行うことが必要である。
- ・成果発表においての子供への具体的な提示、指示を的確に行うことが必要である。（頑張ったこと、成長したこと、うれしかったこと、すごいと思ったこと等）
- ・班の係を機能させる工夫が必要である。
- ・25 人の子供の 3 泊 4 日の安心安全の確保のための職員の勤務態勢の工夫が必要である。